

ケニア中央部における小農の森林資源利用と生計戦略 Forest Resource Use and Livelihood Strategies of Smallholders in Central Kenya

多田 忠義^{1*}, KAUTI, Matheaus Kioko²

Tadayoshi Tada^{1*}, KAUTI, Matheaus Kioko²

¹ 東北大学, ²South East University College

¹Tohoku University, ²South East University College

1980年代以降, 経済危機を打開するために新自由主義的な経済構造調整を余儀なくされたアフリカ諸国については, 貧困問題の実態究明をめざす立場から, 人々が採用している生計戦略, とくに世帯生計多様化の程度に関心が集まっている. 個々の世帯は, 単一の活動に特化することなく, むしろ耕種農業, 家畜飼養, 農外就労, そして森林資源利用のように多様な諸活動を組み合わせて収入創出能力を高め, 生計安全保障を実現しようと試みている. しかし, 従来の研究は, これらの活動のうち森林資源の利用を過小評価する傾向にあり, 木質資源への依存度が高いアフリカの農村での世帯生計の実態や生計戦略が適切に理解されているとはいえない. 森林資源の枯渇を回避するために住民参加型管理を模索しているアフリカ諸国にとって, 小農の森林資源利用実態を適切に評価しながら生計戦略を把握することは, 基本的で最重要の課題である.

そこで, 本研究では, ケニア中央部における森林近傍農村を事例として, 小農の森林資源に対する依存度を計量的に把握しながら, 彼らの生計戦略において森林資源利用の果たす役割について実証的に考察する. そして, 小農世帯が森林資源利用に際してどこに, どの程度依存しているのかを明らかにし, そのうちどれだけが自給水準を超える現金稼得戦略の一部として生計に貢献しているのかを検討する. 森林資源利用の実態と, 採用される生計戦略は, 各世帯のおかれている地理的条件や社会経済的特徴を反映していると考えられる. このため, 地理的条件と管理状態の異なる2つの森林保護区に隣接する小農集落をそれぞれ一つずつ選んで世帯階層別に森林資源に対する依存度の比較検討を行う. この依存度は, 森林資源を含む諸活動の年間生産フローを世帯ごとに評価したうえで, 1. 生産全体に占める森林資源の割合(森林資源依存率), 2. 森林資源の自家消費率(ないし商品化率), 3. 森林資源の供給元別調達率(自己所有地, あるいは森林保護区)の3点から比較する. そして, 4. 純収入構成を類型化し, 森林資源利用に差をもたらす要因について考察する. 森林資源の供給元については, 5. 森林保護区の管理実態と, 6. 保護区の保全的利用と並んで注目されている小農の自己所有地での植林活動(ファームフォレストリー経営)の実態に注目する.

以上の設定課題に対して, 本研究は, 次の結果を得た: 1. 生産全体に占める森林資源の割合は, 各階層とも2割前後であったが, 絶対量には大きな差があった. 2. サンプル世帯の森林資源自家消費率は何れの階層も軒並み9割を超え, 生計維持上重要な位置を占めていることが明らかになった. 3. 入植地, 地理的条件や世帯階層に対応する形で, 森林資源の供給元別調達率に明瞭な傾向が見られた. 4. 世帯類型ごとの耕種農業と薪炭材の構成割合の間に高い相関がみられ, 森林資源の利用に差をもたらす要因は耕地利用のあり方である可能性が高いことを示した. 5. 森林保護区の管理度合いの違いによって, 森林資源の供給元別調達率は変化し, 地理的条件や世帯階層だけでなく, 森林管理のための自助組織の存在も加えて検討する必要性を示した. 6. 干ばつ経験の多い集落の小農所有地においてより多くの植栽数を確認できた. さらに階層が最も高い・低い世帯で植栽数が増加し, 枝打ちによって得られる見込みの薪炭材ストックも多い傾向を示した. 以上の結果は, 従来過小評価されてきた森林資源の生計に対する貢献が見過ごせないほど大きいことを示すと共に, 森林資源の供給元別調達率に注目することで, 生計戦略における森林資源利用の果たす役割を計量的に把握することが可能となった.

キーワード: 森林資源, 生計戦略, ファームフォレストリー, 森林保護区, ケニア共和国

Keywords: Forest resources, Livelihood strategies, Farm forestry, Forest reserve, Republic of Kenya